

特集 話題の新作続々登場!
サバイバルゲームにいこう!



Cover Illustration
M. Kelly (岡田 哲)
© WORLD PHOTO PRESS 2019
※本文中の価格は消費税込みの総額表示です。

CONTENTS

004 **LRRP**
One for All, All for One
ワンフォーオール、オールフォーワン
仲間を信じて生き延びる by Jay Borman

014 第14回 **サイゴン物語 Saigon Memories**
VIETNAM ZIPPO 地獄の詩人たち

018 **“YANKEE STATION”**
—Tonkin Bay U.S. Aircraft Carrier—
アメリカ海軍航空母艦

052 **トイガンニュース**
●タナカ S&W M66 4インチ コンバット・マグナム
●タナカ SIG P226アーリー・タイプ EVO2/
コルト・パイソン.357マグナム 2.5インチ“R-モデル”
●WA ホーグK.K.スペシャル《デラックス・エディション》

055 **THE グリーンベレー**
GREEN BERET
The Special Forces Qualification Course
●文と写真/DJちゅう

The Equipments of the U.S. Force
063 **[現用米軍装備カタログ]**
'90年代特殊部隊装備特集パート6

072 **DEFENDER Mk2“PILGRIM”**
MBDU FLANNEL SHIRT
HELIKON-TEX ●Report by Tomo Hasegawa

078 **マレーシア独立記念日**
軍事パレード Hari Kebangsaan
●写真と文/菊池雅之

- 030 東京マルイ MTR16 G-EDITION
- 037 ウェスタン アームズ HRTスペシャル
《ホーグ・ラバークリップVer.》
- 041 ウェスタン アームズ コルトM1911
《ブラックアーミー》
- 044 シン・サバゲ三等兵 特別増ページ版
俺たちのホームフィールド“PARADOX”
復活に向けて頑張ってるってよSP



Militaria Roundup!
082 **WWIIドイツ軍 野戦憲兵**

088 **MVG 2019**
●Report by SAM MOTOJIMA

サバゲ三等兵APS部
092 **APS的パワースポット巡礼の旅**
—大田原・那須編—

COMBAT FRONT LINE

- 026 APS岡崎公式記録会リポート
- 027 秋のオススメ映画
- 094 新製品てんこ盛り! COMBAT mono
- 096 ツゲチヨリ☆
『ジョン・ウィック:バラベラム』公開記念特別編
- 098 コラム ベトナムを遠く離れて——。文/小倉徹
- 099 レアミリタリーテクノロジー
- 100 ゲームOTT『ゴーストリコン ブレイクポイント』
- 101 USシューティングライフ
- 108 PRESENT
- 109 CIC
- 110 バックナンバー
- 111 奥付&次号予告



戦いのフィールドに最新モデル目白押し!

今日もサバイバルゲーム

サバゲユーザーにとってこれからの季節はベストシーズン! 思う存分フィールドを駆け巡るためにもニューモデルをお探しの方も多いのでは? 今回はCOMBATがリコメンドするニューモデルを徹底レポート。フィールドの覇者、東京マルイからは勝つための1挺、MTR16 G-EDITION。ウエスタン アームズからはリエナクトやサバゲのベテラン米兵装備にピッタリのコルトM1911〈ブラックアーミー〉とFBIマニア垂涎のHRTスペシャルを! そして…。立て続けに日本列島を襲った台風で大きな被害を受けた各地のゲームフィールド。サバゲ三等兵で度々お世話になっているPARADOXも甚大な被害が…。その復興への険しい道のりをレポート。



フィールドの主役になれる! 注目の最新モデルレポート

- 東京マルイ MTR16 G-EDITION
- ウエスタン アームズ コルトM1911〈ブラックアーミー〉
&HRTスペシャル〈ホグ・ラバーグリップVer.〉
- 負けてたまるか! PARADOX復興へ前進中!
- サバゲ三等兵 復興作業スペシャル

今日も
最新モデル目白押し!
サバイバル
ゲーム

東京マルイ

©東京マルイ ☎03-3605-3312
http://www.tokyo-marui.co.jp/
●写真:青木健格 ●テキスト:編集部

MTR16

G-EDITION

ガスブローバック



特別な証、「MTR G-EDITION」
の刻印が誇らしげに輝いている。

フラッシュハイダーにもワ
ンポイントでゴールドのラ
インが入れられている。

東京マルイ・オリジナルデザインのカスタムM4、 MTR16に豪華な特別仕様がラインナップ!

M16/M4系アサルトライフルを東京マルイが独自の解釈で、より実戦的にカスタムしたMTR16は、Zシステムを搭載したガスブローバック・マシンガン・シリーズでリリースされた。16インチという長いバレル、垂直に近い角度に変更されたグリップ、そしてアルミ切削で強度も雰囲気も実銃と

見間違ふほどのクオリティを持つM-LOKレールシステムを搭載したハンドガードなど、戦闘からレース・シューティングまで幅広く使えるマルチパーパスなアサルトライフルだ。そのMTR16に、ボルトやセレクター、マガジンキャッチなど、各部メタルパーツをゴールドにしたG-EDITION

(ジーエディション)が登場した。このMTR16 G-EDITIONは、今年5月に開催された静岡ホビーショーに参考出品されていたモデルを商品化したもので、すでに発売中のMTR16からメカなどのシステムに変更はなく、優れた命中精度と迫力あるブローバックを踏襲している。

3ガンマッチャやライフル系のシューティングだけでなく、各部ゴールドパーツが少し目立つが、インドア、アウトドアを問わず、サバゲでもメインウエポンとして必要十分なポテンシャルを持つ、このMTR16 G-EDITION、ぜひコレクションに加えて欲しい。発売時期は2019年末で価格は未定。



MTR16 G-EDITION
●全長:837mm/919mm (ストック最大伸長時)
●銃身長:250mm
●重量:2,676g (空マガジン装着時)
●装弾数:20+1発
●価格:未定
●発売時期:2019年末発売予定

アウターバレルは塗装ではなく、
アルマイト仕上げとなっている。

各部のパーツはゴールド塗装が施されている

HRT SPECIAL HOGUE RUBBER GRIP Ver.



伝統のシルエットを受け継ぐ、アグレッシブなハイキャパシティ・ガバメント

WAオリジナル、SVIと続いたハイキャパシティ・シリーズ。その大容量マガジンを受け継ぐ第3弾として、2000年代初めにモデルアップされたのが、カナダの銃器メーカー、パラオーディナンスが生産するP14・45だった。

レースカスタムとしてスタートした、モジュラー・フレームのハイキャップ.45は、いかにもハイテクを感じさせる外観で、短期間にガバメント・ファンを虜にした。ハイキャップ・ガバメントの代名詞的な存在になっているSVI、STIなどが、多弾数化が進むセミオートの傾向をいち早く捉え、近未来的なデザインと、高い機能性をアピールして、レースからコンバットまでをカバーするバリエーションを製作。近年、

アメリカの軍・警察などがその9mmモデルを採用するなど、絶大なファイアーパワーと共に、現在も圧倒的な人気を誇るガバメント・モデルとなっている。

そんな傾向の中、ベーシックなM1911ガバメントの仕様とデザインにこだわったのが、パラオーディナンス。マガジン・ハウジングをハイ

キャップ・サイズに拡大した、メタル一体型フレームを製作して、ガバメントのイメージそのままのハイキャップ.45を作り出した。このパラオーディナンス製ハイキャップを、FBIの要請を受けたカスタムメーカー「レスベア」が、ホステージ・レスキュー・チーム（HRT）用にカスタム・アップ。総数わずか70数挺といわれる幻のFBIカスタム、「HRTスペシャル」が製作された。

WAでは、ベーシックモデルの他、SFアクション「バイオハザード2」でアリスが使用したポマーサイト装備のP14・45リミテッドとバリエーションを発売し、最終（現時点で）モデルとしてFBIタイプのHRTスペシャルを製作。今月は、そのHRTが、最新の素材とフィニッシュ、豪華な装備で登場する。

素材は、重量と高質感に定評のあるCBHW。金型成形後、ブラスト・ショットと、丹念なポリッシュで下地を整え、専用の黒染め液で、丁寧にブルーイングしたハイグレードなフィニッシュ。黒く冷たい色合いが、従来のHRTスペシャルに施されてきた、焼き付け塗装とはまったく異なる、スチール・



“今だからこそ”フィールドへ行こう! 特別増ページ版!

俺たちのPARADOX、

復興に向けて頑張ってるってよ!

●写真と文 織本知之 ●撮影協力 サバイバルゲームフィールドPARADOX、狩野健一郎



台風被害、家屋損壊1万3655棟。 電柱2000本以上倒壊。 電力喪失64万戸以上。

令和元年9月5日に洋上で発生した台風15号、アジア名「ファクサ」は最低気圧955ヘクトパスカル、米海軍解析の最大風速は115ノット、カテゴリ4のタイフーンに発達した。強い勢力を保ったまま9月9日未明、関東に上陸する台風としては過去最強クラスの勢力を保ったまま、東京湾を抜けて千葉市に上陸。その暴風は関東各地に甚大な被害をもたらしたのであった…。

サバゲ三等兵広報オリモトの回想 (一部フィクション)

9月9日、深夜。台風の上陸情報を事前に入手し、普段からタクティカルかつリスクヘッジな私は事前の準備怠りなく、雨戸をきちんと閉め、外のバケツは飛ばないようにひっくり返し、フルタのミルクチョコレートは非常用に余分に買った袋買っ

ておいた。これで台風への備えは万全の筈であったが、午前2時を過ぎた頃から徐々に強まる暴風雨…。

午前3時、さすがにこれはマズイことになりそうだという予感がした矢先に停電。これが我が家を襲った1週間の電力喪失の始まりであった。

午前4時、夫婦で2歳半のムスメを挟み家族3人、何かあれば非難脱出バイルアウトも止む無しの所存で備えていたが暴風のピークは去ったようだ。

午前6時、まだ強風であったが台風本体は遠く去ったようだと言葉を空けると…伏せたはずの庭のバケツとお向かいの屋根が喪失…。

…これはサバゲ三等兵広報オリモトと観測史人類を見ない暴風被害にあった君津PARADOXの復興への記録である。

LRRP

ワンフォーオール、オールフォーワン
仲間を信じて生き延びる

One For All All For One

主力部隊の目や耳となって敵状を探るだけでなく、必要とあらば待ち伏せへのカウンター攻撃やハンターキラー任務まで自在にこなすLRRP (Long Range Reconnaissance Patrol=長距離偵察部隊)。ベトナム戦争で一躍有名になった彼らの活躍を余すところなくお伝えするシリーズ。今回は第1歩兵師団と第82空挺師団の豪華2本立て!

2つのLRRPは同じ偵察部隊でありながら軍装や運用面において違いが見られ、それぞれの個性がより鮮明になります。

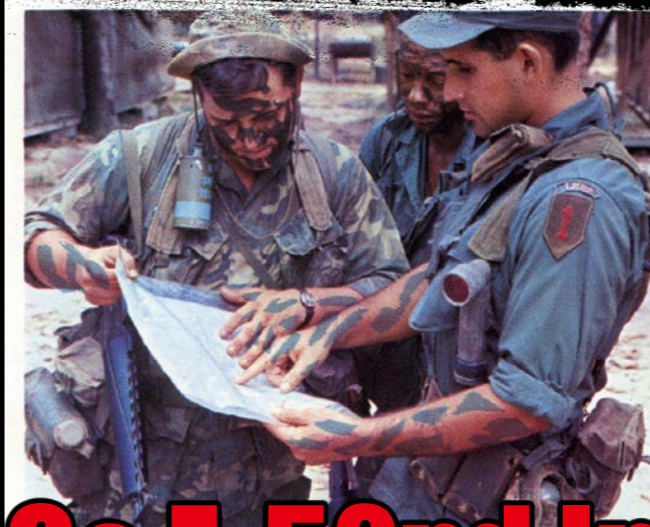
by Jay Borman
構成 / 鈴木健太郎
コーディネート / 河村喜代子



LRRPタブと一体化された第1歩兵師団のローカルメイドSSI。1917年に創設されたこの師団は「The Big Red One」という愛称を持ち「BRO」と略して呼ばれることも多い。また戦いの矢面に立つことも多いため「The Big Dead One」という皮肉の効いた別名もある。



フェイスペイントを塗り迫力満点となったF中隊のロナルドクルーズ軍曹。この写真は偵察任務に同行した第1歩兵師団の広報室が撮影したものだが、袖まくりをした腕にもペイントが施されたように加工されていて「素肌までカモフラージュした偵察隊員」というイメージが当時から浸透していた様子が分かる。軍曹が所属した偵察チームの様子は師団の機関紙「DANGER forward」1969年3月号に掲載された。



◀クルーズ軍曹が所属した偵察チームリーダー、ステーブ マットウーン軍曹 (左) と作戦地域の確認を行なうジェリー デービス中尉。中尉の左肩に付けられた第1師団SSIとLRRPタブがはっきり見える素晴らしい写真で、彼の腰には空軍用M16弾倉ポーチの姿がある。
▶真新しいタイガーストライプ迷彩服を着て訓練中のLRRP分遣隊。第1歩兵師団のSSIはフルカラーでもさほど目立たなかったで、ほとんどの兵士はサブデュード品に変更せず、写真でもフルカラー品にLRRPタブという組み合わせである。ブーニーハットに革製のおこ紐が追加されているのに注目。

Co F, 52nd Inf (LRP) Co I, 75th Inf (RANGER)

1965年10月という早い時期からベトナムに展開していた第1歩兵師団がLRRPを編成したのは66年4月で、主に第16歩兵連隊の偵察小隊から引き抜いた人員で構成されたこの部隊は人数、装備ともに不十分だったが、師団が主導したオペレーションパーミングム (66年4月)、オペレーションエルパン (66年5月) などで敵の捜索に大きく貢献すると、翌67年9月には2個小隊を持つ中隊規模のLRRP分遣隊となり、この頃から偵察隊員がニャチャンのMACVリーコンドースクールに派遣されるようになった。同年12月20日、分遣隊は第52歩兵F中隊 (LRP) と改称したのだが、F中隊に与えられた最初の任務はベトナムを訪問するジョンソン大統領の警護というユニークなもので、中隊の偵察任務は師団の司令部がカンボジアとの国境に近いライケにあったためにカンボジアの補給所で装備を整えたばかりの北ベトナム正規軍や解放戦線を相手にすることが多く、危険度が非常に高かった。69年2月に行なわれたレンジャー部隊への改編でF中隊は第75歩兵連隊中隊 (レンジャー) となり、この年のボブ ホープ クリスマスショーがライケで開催された際には、ショーを見るために集まった第1歩兵師団や第1騎兵師団将兵およそ1万2千人を守るため、1中隊はサイゴン川の南で黙々と敵の動きを監視していた。1中隊の偵察チームは6人編成が基本でハンターキラーやスナッチミッション (捕虜の獲得) の場合は12人のチームを組んでおり、師団がベトナムを離れる8日前の1970年4月7日にその活動を停止した。



1966年8月に撮影された第1師団のLRRP隊員。ヘルメットの代わりに身軽なブッシュハットを被っているが迷彩服や現地製リュックサックといったベトナムのLRRPを象徴する装備は一切なく、一般歩兵と同じフルカラーパッチを付けたユーティリティユニフォームを着用するなどまだ洗練されていない偵察隊員の姿を伝える貴重な写真である。



1967年9月、仲間 Halt (止まれ) の手信号を送る第1師団LRRPのORTO (無線手)。手にしているのはCAR-15で前年よりも偵察隊員らしくなってきたが、相変わらず目立ちやすいカウボーイ型のブッシュハットを被っており、機能的なブーニーハットや三角巾を用いるスタイルはまだ確立されていない。



第14回

サイゴン物語 Saigon Memories

VIETNAM ZIPPO

地獄の詩人たち

ベトナムへ戦争に行ったアメリカ兵たちは、戦いのフィールドへ放り出された。戦争の作法も知らない彼らは、希望し、祈り、絶望し、それで、さらにのたうった。それしかできなかったからだが、恐怖に恐怖しながら命を捨てるうちに知ることになる。一切がムダだと。絶望を生きる心は、絶望をはき出す心に吸い寄せられる。それがジッポーに刻まれた言葉だ。無限地獄を這いずり回っていたベトナムジッポーの詩人と、その言葉を求めた者も同じ地獄の住人だった。

文/コンバットマガジン編集部 Text/CM Editorial Staff
写真/今井今朝春、WPPコレクション Photo/Kesaharu Imai, WPP Collection

理由はきっと「死と陰と谷」という言葉にある。ベトナムジッポーに刻印されているフレーズのなかでも、強いインパクトを放っている。出所は旧約聖書、詩篇第23篇4節だ。

どちらを向いても逃れようがない谷。死に押し包まれている。目の前に据えられていて、手で触ることができそうなほどだ。何一つ確実なことがないベトナムで、それだけは確かだった。バリエーションはいろいろあるが、核にあるのは死の予感だ。それが兵士の心をとらえたのはまちがいない。

実際の兵士たちは、どのようにして、こうした刻印入り「ベトナムジッポー」を手に入れたのだろうか。悲壮感溢れる言葉とは裏腹に、これがもう、拍子抜けするほど簡単だったらしい。バーの片隅に、彫師がいる店があった。また、女の子がいる店へ行行って、ちょいの間、時間を過ごしているだけで、手持ちのジッポーに刻印が入って戻ってきた。しかも、「死と陰と谷」のフレーズにしても、サンプル帳にバリエーションを含めて、何種類か用意されており、指差し注文すればいいだけだった。

深遠そうな文句が刻まれたベトナムジッポーは、ウォーアートであり、アメリカ兵によるフォークアートだという見方がされている。



自分だけのライター、自分仕様に作り替えたライターを、ベトナム戦争に従軍した兵士たちは持ち歩いた。それらベトナムジッポーは、今や玉石混交状態。カオスのなかにいる。本物か、ニセモノか、はたまたレプリカなのか、コピーなのか、呼び方までバリエーションがありすぎる。当然、

真贋を見きわめたい派は、本物とニセモノを見分ける方法を追求している。反対に、そんなの無意味だとする派もいる。ニセモノか、本物かどうの問題は、実際のところ悩ましい。それでも、全部をひっくり返して見ていることは、ベトナムジッポーとは、時代の証言者だという点だ。

ところで一つ、ひとつのベトナムジッポーがたどってきた来歴となれば、別の話になる。なかには、死体のポケットから抜き取ってきたライターもあるし、壊れたライターを、別のライターと合体させて、1個のライターとしたものもある。そんな「接ぎ木」ライターも含めて、ベトナムジッポーの世界は面白い。

かつてのサイゴン、現在のホーチミン市で、ベトナムジッポーに刻印していた人の話を聞く機会があったので、それを紹介しておこう。

「1980年代に、ちょこちょこジッポーのブームがあった。1990年代に大ブームがきた。戦争中は仕事が少なかった。ジッポーを集める人が増えて、戦後盛んになった。刻印の仕事は、1966年にボールペンに名前を入れる技術を学んだことが始まりだった。だから、ペンのエングレーバーになったのが最初。1968年当時、刻印用のマシンは、バイクよりも高かった。2800万ドンはした。大ブームになった1990～94年になると、販売をとりまとめる人からの依頼が多かった。個人レベルの注文ではなくなった。自分と息子と従業員で、6台のマシンを入れてやっていた。業者の人から頼まれてこなしていた。仕事場は3区グエン通りにあった。戦争中の1968年は、レロイ通りでやっていた」。

**エピタフとは本来、死者の墓の上に刻まれた言葉。
ジッポーに刻まれた言葉は
倒れた兵士たちの墓碑銘そのものになった。
死に行く者に捧げられる偽りのない言葉があった。**

“YANKEE STATION”

Tonkin Bay U.S. Aircraft Carrier

アメリカ海軍航空母艦

USS Enterprise(CVN-65)

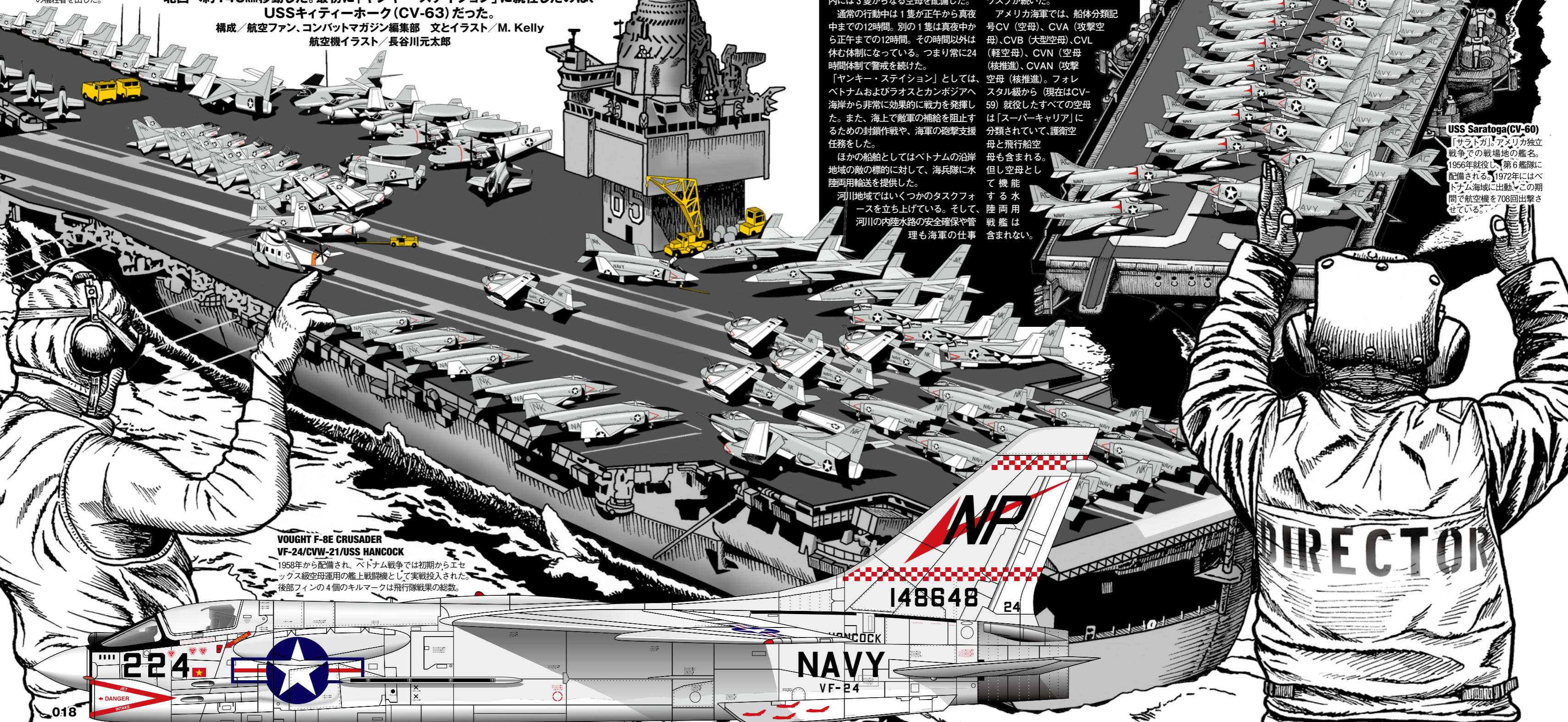
「エンタープライズ」。世界初の原子力空母は1961年就役。愛称は「ビックE」。ベトナムには1965年から1972年の間に6回出動している。1969年1月に事故火災を起こし27名の犠牲者を出した。

アメリカ海軍太平洋艦隊の第7艦隊タスクフォース77(空母戦闘/攻撃部隊)は、1964年から1973年までの9年間 トンキン湾および南シナ海に配備された。

「ヤンキー・ステーション」は、トンキン湾上のアメリカ海軍最前線指令部の遊弋地点としての役割を果たした。戦争が激化し始めると出撃地点の位置を北西へ約145km移動した。最初に「ヤンキー・ステーション」に就任したのは、

USSキティホーク(CV-63)だった。

構成/航空ファン、コンバットマガジン編集部 文とイラスト/M. Kelly
航空機イラスト/長谷川元太郎



VOUGHT F-8E CRUSADER VF-24/CVW-21/USS HANCOCK

1958年から配備され、ベトナム戦争では初期からエセックス級空母運用の艦上戦闘機として実戦投入された。後部フィンの4個のキルマークは飛行隊戦果の総数。

その目的とは、砲艦外交および航空偵察任務のための派遣だった。キティホーク(CV-63)は、ベトナムとの開戦前にラオス上空での偵察任務をしていた。その年の6月にはコンステレーション(CV-64)と交代し、8月にはトンキン湾の事件に対応して最初の爆撃任務を開始した。ベトナム戦争中に延べ23隻の空母が、短期又は長期に「ヤンキー・ステーション」と、「ディキシー・ステーション」(南爆用)に関わった。因みにヤンキーとは南北戦争での北軍兵士、ディキシーとは南軍兵士の俗称だった。

アメリカ海軍の最初の空母「ヤンキー・ステーション」は、艦載機による爆撃を行ったローリングサンダー作戦やラインバック作戦などの任務以外に、北ベトナムに対する持続的な航空作戦をするため、トンキン湾内には3隻からなる空母を配備した。

通常の行動中は1隻が正午から真夜中までの12時間。別の1隻は真夜中から正午までの12時間。その時間以外は休む体制になっている。つまり常に24時間体制で警戒を続けた。

「ヤンキー・ステーション」としては、ベトナムおよびラオスとカンボジアへ海岸から非常に効果的に戦力を発揮した。また、海上で敵軍の補給を阻止するための封鎖作戦や、海軍の砲撃支援任務をした。

ほかの船舶としてはベトナムの沿岸地域の敵の標的に対して、海兵隊に水陸両用輸送を提供した。

河川地域ではいくつかのタスクフォースを立ち上げている。そして、河川の内陸水路の安全確保や管理も海軍の仕事

1966年8月までにタスクフォース77は、2~3隻の空母で運航していたが、それ以降は3~4隻になった。1972年のイースター作戦では、5~6隻の空母が運航した。各空母には、通常2個の戦闘機と3個の攻撃中隊、偵察攻撃中隊、空中早期警戒中隊にグループ化され70~100機がより小さく分遣隊になっている。「ヤンキー・ステーション」はベトナムから地上兵士が撤収した後の1973年8月までトンキン湾に停まった。

アメリカ海軍では、船体分類記号CV(空母)、CVA(攻撃空母)、CVB(大型空母)、CVL(軽空母)、CVN(空母(核推進)、CVAN(攻撃空母(核推進)、フォレストアル級から(現在はCV-59)就役したすべての空母は「スーパーキャリア」に分類されていて、護衛空母と飛行船空母も含まれる。但し空母として機能する水陸両用戦艦は含まれない。

USS Saratoga(CV-60)

「サラトガ」。アメリカ独立戦争での戦場の艦名。1956年就役し、第6艦隊に配備される。1972年にはベトナム海域に出動しこの期間で航空機を708回出撃させている。

HELIKON-TEX 2020 New Models

GENTLEMAN SHIRT/CITY SHIRT/PILGRIM SHIRT/MBDU FLANNEL SHIRT & more

伝統的かつ定番のファンションアイコンに、最新の機能が融合。
ヘリコンテックス魅力のNewモデル。

Photos&Text by Tomo Hasegawa
中田商店 ☎03-3839-6866 <http://www.nakatashoten.com/>

ヘリコンテックス新型シャツ

ヘリコンテックス社の新型シャツが4種同時に新ラインナップ。

4種のうち3モデルはいずれも同社の人気シャツ『ディフェンダーシャツMk II』がベース。

スリムフィットだが、パーツの型取りに優れ、動きやすい。ポケットも使い易く、タクティカルウェアの傑作デザインである。これをベースに……、「ジェントルマン」はブルー系のドレスシャツ風、「シティ」シャツはチェック(格子)柄となっている。

いずれもナイロン系のストレッチ素材で、ソフトで動きやすく、着心地良いのが魅力。「ジェントルマン」はネクタイを併せスーツに合わせてもGood。また、ネクタイ無しで、フロントオープンで着用するのもよい。「シティ」シャツはよりカジュアルに、ベストなどをあわせると粋な装いとなる。

「ピルグリム」シャツはネルシャツ風に起毛した厚手生地を使用。チェック柄でアウトドアな印象が強い。が、アフガンなど山岳地域に展開する特殊部隊員が愛用している雰囲気も漂う。

ゴリゴリの戦闘服を一般の生活で着用すると、目立ってしまう。

そこで、世界で広く愛用されている定番のファンションアイテムを、人(一般人)に紛れるカモフラージュ

ユとして製品化。季節や天候、オフィスやアウトドアなど状況によらず場所に溶け込む事ができる。いざという時、事件現場に急行しても対応可能。あらゆる関に備えられる、真にタクティカルなシャツと言える!

チェック柄は慣れてないと選びにくく思え、手強い印象があったりする。ところが、実際に着てみると……、意外や意外、最初に抱いた違和感は全く無くなってしまふ。

今回の取材当初Tomoも「バジマみたいだな……」などと愚かにも早合点してしまっていたものも、モデルさんが着てみるととても似合っており、驚きの展開が楽しめた。

要するにデザインが良いモノは人を選ばない! わけです。

“復古創新”のタクティカルウェア

同じチェック柄で新型シャツがもう一つ、新型シャツ4種の中で異彩を放つのが「MBDUフланネルシャツ」。

しなやかなネル素材をベースに、ソフトシェル素材をアクセントに用いたニューデザイン。ボディ前面に大型のファスナーポケットを装備。大きな安心感が魅力。カットがとても良く、ボディラインが美しい。もっとも顕著なのがウエスト部分。キュッと絞られ、上半身が逆三角形に



脇部分にベンチレーションを装備。

胸の隠しポケットもベンチレーション機能を兼備する。



立体的なデザインで、ウエスト周りがスッキリ。ストレッチ素材の柔軟性もあって動きやすい。カジュアルなベストとの組み合わせも粋だ。

胸の中央にグラスホルダー(眼鏡掛け)を装備。IDホルダーやペンを装備するのも便利。



DEFENDER Mk2 “CITY” SHIRT/価格7,590円

「ディフェンダーMK2」の最新モデルバージョン。素材がチェック柄になると、これまでガラリと印象が変わる。世界共通のカジュアルファッションだから街に違和感なく溶け込む事ができる。バインブレイド(左)とサイターブレイド(右)の2色。



見える。シャープで精悍なラインが魅力だ。

胴体部分にダブ付きがあると、ガンを扱う時に一緒に掴んでしまったり、ドアノブやガレキなどの突起物に引っかけてしまったりして動きが妨げられる。タイトにする事でより、引っ掛かりを抑え、動きやすくなるのだ。

アフガニスタンなどで活動する特殊部隊員そのもの。バックパッカーな見た目でも人街に馴染む。しかもCoverパンツ、シティタクティカルパンツによく合う。秀逸なのは「グレイマン」パンツとの組み合わせだろう。

新素材に限らず、伝統的な生地の持ち味や素材の特長を活かし、最新の機能性を融合。古いモノの良さに再認識しながら、新しいコンセプトを生み出している。「復古創新」と言うべきスタンスは「ヘリコンテックス」らしい。タクティカルの世界を突き進む高機能なウェアを生み出している。

タイトが着やすい?! タクティカルの新発想!

「タイト」だから着やすい!

この観点で注目したいのが、ヘリコンテックスのアウトター新アイテム「アーバンハイブリッド ソフトシェル ジャケット」だ。

ソフトシェルとグリッドフリース、同社製品の優れた素材2種が合体。「防風」と「保温」を兼備した、まさにハイブリッドなジャケットだ。

注目はフロント・ファスナーを開

めたとき。他アウトターに比べてタイトフィットで優れた保温力を発揮。さらに動きやすく、ピタッとしたフィット感で、身体が支えられているような安心感があるのだ。またヒップ部分をスッポリ覆うので、座った状態でも暖かい。

これまでに無かった新しい着用感がヘリコンテックスらしい高性能。素晴らしい。

また、ウルフハウンドやグリッドフリースなど、高性能で人気の定番アウトターが、フーディー(フード付き)タイプで新登場。新型シャツとよく合う。

もちろん、ガンファイタージャケットや「パトリオット」ヘヴィーフリースジャケット、レベル7ライトウエイトジャケットなどの、傑作ジャケットとの組み合わせも魅力的にマッチしてくれる。

HELIKON-TEX/M-65 フィールドジャケット

M65フィールドジャケットは米軍が寒冷地用のアウトターとして1965年に採用。じつに50年以上が経過したが、機能性とハードなルックスから、として、世界中で人気の定番ミリタリーファッションとして、時を超えて魅了する。

ヘリコンテックス社の「サープラスライン」にM-65フィールドジャケットがある。各部の形状はもちろん、生地の風合いや縫製までを忠実に再現。たんなるレプリカではなく、優れた機能性が時を超えて現代に受け継がれる。

様々な進化を遂げるヘリコンテックスの製品。やはり目の離せない注目度No.1のギア・メーカーだ。今後楽しみだ。

季節や状況に合わせて、シャツの色や柄、素材が選べる。外見が違っても、デザインが同じなので、収納箇所に迷わず機能的に使える。優れたコンセプトだ。

